



4. ヘルスコミュニケーション学関連学会賞 2022年度優秀書籍賞選考委員長講評

宮原哲
西南学院大学外国語学部

授賞著者と書籍

奥原剛 実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーション人を動かす10原則. 大修館書店
2021年

医療、看護、薬学、情報、それにコミュニケーションはどれも人間のウェルビーイングに直結する実践的な学問領域で、本学会は研究と教育はもちろん、その結果をいかに効果的、効率的な実践につなぐことができるか、という問いに大きな関心を寄せている。最優秀書籍として表彰する著書の選考にあたっては、学会の目標をいかに適切にとらえ、そしてこれらの学問領域で枠組みとして認められる理論的基盤に立脚しているか、という点を判断基準と考える。同時に、学会が、専門家から一般の、いつかは病気になり、医療の世話になる、つまりすべての読者にとって有益で、また読みやすい書籍を高く評価することは言うまでもない。

具体的には、ヘルスコミュニケーションという、専門性の高い領域で多くの知識と経験を獲得してプロとして仕事をする人にとって、患者の受療行動に影響を与え、治療や健康維持に必要な行動をしてもらおうか、という課題はきわめて重要で、かつ初歩的、という信念の下で本書を最優秀書籍賞とした。医療者が一方的に患者に多くの、そして場合によっては複雑で難解な指示や情報を提供しても、患者が「自己説得」、つまり内的動機づけを行わない限り、行動変容は一時的なものであったり、それらの情報や指示が受け入れられなかったりすることは明らかである。

著者、奥原剛氏は、いかに患者が自己説得をするのか、という問いに対して、多様な学問領域からの知見を使って答をだしている。学問と実践とのせめぎあいの中で、医療プロに必要な行動変容促進のための原則を、「実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーション - 人を動かす10原則」は示している。文体は分かりやすく、適度なユーモアが含まれている。ヘルスコミュニケーションに携わる者、及びそれらの職に就くために学んでいる人にとって、一般市民に健康増進や病気予防などの情報にどうしたら関心を持ってもらえるのか、行動してもらえるのか、という現実的な課題に取り組む入り口として分かりやすくまとめられている。おもしろさの中に多くの貴重な主張が織り成された著書といえる。

特に、驚きを与えるの「オ」、クイズを使うの「ク」や、中学生にも分かるように伝えるの「チュ」など、10の頭文字を綴ってできた、「お薬、シメジのシチュー」の標語を用い、「人を動かす10原則」を解説しているのが新鮮である。社会心理学や教育心理学、行動経済学などの領域で認められる理論的根拠も示され、「行動」を表面的に捉える代わりに、それが行動する者の知識や情動、動機などに根差しているという一貫した主張が展開されている。利用した文献からも、ヘルスコミュニケーションの分野で研究をしたい読者に役立つ入門書であることがわかる。

読む者を楽しませてこそ学んでもらえる、という原則を実践した、場合によっては堅苦しい領域を研究する本学会が、自信をもって最優秀書籍賞として選んだ一冊である。